

11匹きのねこと 馬場のぼるの 世界展

World of the 11 Cats
and BABA Noboru

2014年

9/6 土

→ 11/24 月・祝



開館時間：8時30分～17時（入館は16時30分まで） 休館日：月曜日（月曜日が祝日の場合はその翌日）

入館料：一般 700 (650) 円 / 大・高生 400 (350) 円 / 中・小学生 250 (200) 円 * () 内は 20 名以上の団体料金

主催・会場：萬鉄五郎記念美術館 協力：馬場歌子 / こぐま社 / 童心社 / ポプラ社 / 島田安彦コレクション

特別協力：青森県三戸町 / 青森県立美術館 企画協力：株式会社アドシステム

後援：岩手日報社 / 岩手日日新聞社 / 盛岡タイムス社 / 河北新報社盛岡総局 / 朝日新聞盛岡総局

読売新聞盛岡支局 / 毎日新聞盛岡支局 / 産経新聞盛岡支局 / 日本経済新聞社盛岡支局

NHK 盛岡放送局 / IBC 岩手放送 / テレビ岩手 / めんこいテレビ / 岩手朝日テレビ

花巻ケーブルテレビ / エフエム岩手 / ラヂオもりおか / 奥州エフエム / えふえむ花巻

萬鉄五郎記念美術館

11ぴきのねこと 馬場のぼるの世界展

World of the 11 Cats and BABA Noboru

好奇心旺盛で、食欲で、ちょっとずるいところもあるけれども、なぜか憎めない11ぴきのねこたちが繰り広げる物語。馬場のぼるの『11ぴきのねこ』シリーズは、1967(昭和42)年の第一作誕生から今日まで、そののびやかな表現とユーモアあふれるストーリーで子どもから大人まで幅広い世代に愛され続けてきました。

作者の馬場のぼる(1927-2001年)は青森県三戸町に生まれ、岩手県二戸市で学生時代をおくり、戦後、漫画家としてデビューします。児童雑誌で『ポストくん』や『ブウタン』を発表、親友でもあった手塚治虫や福井英一とともに「児童漫画界の三羽ガラス」と呼ばれるほどの人気を博します。その後、絵本作家としても活動を開始、第一作の『きつね森の山男』から代表作『11ぴきのねこ』シリーズ、そして遺作となった『ぶどう畑のアオさん』まで多くの絵本を発表し今日なお注目されています。ほのぼのとした画風と深みのあるユーモア、独特の語り口は馬場作品ならではの特徴といえますが、それは漫画でも絵本でも生涯を通じて変わることはありませんでした。

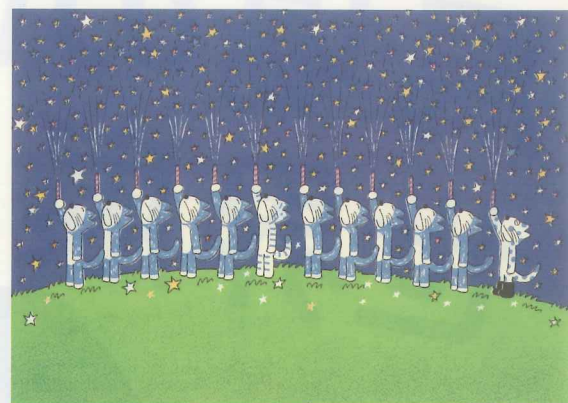
本展は、『11ぴきのねこ』シリーズをはじめとする絵本や漫画の原画、印刷原稿やスケッチに加え、幼少期や青年期の貴重なノートやイラストなどの資料を加え、馬場のぼるの魅力を紹介します。

BABA Noboru 馬場のぼるプロフィール

1927(昭和2)年、青森県三戸町に生まれる。岩手県立福岡中学校(現:福岡高等学校)に学んだ後、1949(昭和24)年に上京。漫画家としてスタートし、漫画『ブウタン』で第1回小学館漫画賞、『11ぴきのねこ』で第15回産経児童出版文化賞、『11ぴきのねことあほうどり』と日本経済新聞連載の漫画『バクさん』で第19回文藝春秋漫画賞。『絵巻えほん 11ぴきのねこマラソン大会』で、イタリアの子どもたちが選ぶイタリア・ポローニャ国際児童図書展エルバ賞。一連の業績に対して、1993(平成5)年に日本漫画家協会賞文部大臣賞。1995(平成7)年に紫綬褒章。日本漫画家協会、漫画集団、漫画家の絵本の会に所属。2001(平成13)年没。



- ①『ぶたたぬきつねねこ』こぐま社 1978年刊/原画
- ②『11ぴきのねことへんなねこ』こぐま社 1989年刊/印刷原稿(特色刷り校正用リトグラフ)
- ③『ブウタン』『幼年ブック』(集英社) 1954年掲載/漫画原稿
- ④『アリババと40人の盗賊』こぐま社 1988年刊/原画
- ⑤『11ぴきのねことぶた』こぐま社 1976年刊/印刷原稿(特色刷り校正用リトグラフ)
- ⑥『ぶどう畑のアオさん』こぐま社 2001年刊/原画
- ⑦『11ぴきのねことあほうどり』こぐま社 1972年刊/ラフスケッチ
- ⑧『紙風船』(小学五年生時作) 1938年頃



会期：2014年9月6日(土)～11月24日(月・祝)

開館時間：8時30分～17時(入館は16時30分まで) 休館日：月曜日(月曜日が祝日の場合は翌日)

入館料：一般700(650)円/大・高生400(350)円/中・小学生250(200)円 * ()内は20名以上の団体料金

萬鉄五郎記念美術館 〒028-0114 岩手県花巻市東和町土沢5-135 Tel.0198-42-4402 Fax.0198-42-4405

萬鉄五郎記念美術館